

# 令和5年度学校経営計画

## I スクールミッション、スクールポリシー

### 1 スクール・ミッション

農業に関連した知識・技術を身に付け、農業の見方、考え方を生かして、社会の持続可能な発展に貢献する態度を育むことを目指して、一人一人の心を育てる個に応じた教育を推進し、次世代農業を創造する専門的な学び、社会の課題を解決する探究的な学びを通して、自他の生命や人格を尊重する態度と豊かな人間性を身に付けた、農業の新たな可能性を追究する志の高い人材を育成します。

### 2 スクール・ポリシー

#### (1) グラデュエーション・ポリシー

- ①基礎的な学力を身に付け、自分の目標を達成するために必要なことを学ぶ方法を身に付けている。
- ②農業の見方、考え方を生かして社会の課題を見出し、課題解決のため探究し、行動することができる。
- ③社会の中での自分の役割を見出し、自分の目標に向かって努力することのできる進路選択をしている。
- ④多様な人々が存在することを認め、自分を大切にすると共に他者を尊重することができる。
- ⑤自立した社会の一員として、助け合い支援し合いながら行動することができる。

#### (2) カリキュラム・ポリシー

- ①学習の動機づけを確実にし、基礎・基本の理解を徹底して支援することで、学力を高めるとともに学習方法を身に付けられるようにする。
- ②農業の特性を生かした課題解決のための探究型授業、実習、実験を中心とした授業により、農業の見方、考え方を身に付け、社会の持続可能な発展に貢献する態度を育む。
- ③自らを知り、社会を知ることのできるキャリア教育を、3年間をとおして計画的に行い、社会の中での自分の生き方や在り方を考えさせ、社会に貢献する志をはぐくむ。
- ④人権教育や一人一人の心を育てる個に応じた教育を推進し、生徒一人一人の心をはぐくむ。
- ⑤生徒の様々な活動を支援し、生徒同士が切磋琢磨し、協働しながら目標に向かって努力する経験をとおして、達成感や自己肯定感をはぐくむ。

#### (3) アドミッション・ポリシー

農業のもつ優れた教育特性を生かし、社会貢献することのできる心身共に健康な人材の育成を目指しています。そのため、以下のような生徒を期待しています。

- ①農業（園芸、栽培、食品加工等）に興味・関心がある生徒
- ②社会のルールやマナーを身に付け、自分を大切にするとともに、他者を思いやることのできる生徒
- ③自分の将来に目標をもち、進路実現に向けて努力することのできる生徒
- ④生徒会活動や部活動に、熱心に取り組むことのできる生徒
- ⑤積極的に地域連携に参加し、自ら前向きに活動することのできる生徒

## II 目指す学校像と生徒像

「食と緑と農を創造する学校」として、農業の専門教育をとおして、地域社会を支える人材をはぐくむことを基本とする。また、本校で学習した農業に関する学びに誇りをもち、「将来へ向けて一步を踏み出すことのできる生徒」を育成する。

### 1 目指す学校像 「食と緑と農を創造する学校」

- (1) 農業の専門教育をとおして、地域社会を支える人材をはぐくむ学校

- (2) 自他の個性と生命を大切にする生徒の心を育てる学校
- (3) 限られた条件の下でも目標に向かって努力することのできる生徒を育てる学校
- (4) 地域貢献活動をとおして、地域社会や都民の期待に応える学校
- (5) 教員一人一人が、教育の専門職として自らの専門的能力の向上に努める学校

## 2 目指す生徒像 「将来へ向けて一步を踏み出すことのできる生徒」

- (1) 農業に誇りをもち、学びを生かそうとする生徒
- (2) 自分を大切にし、自分と同じように他者を大切にす生徒
- (3) 目標に向かって努力することのできる生徒
- (4) 自分のため、他者のため、社会のために行動・実践できる生徒
- (5) 時間を守り、時と場に応じた身だしなみを整えることができる生徒

## Ⅲ 教育活動の目標と方策

### 1 学習指導の充実

#### 【中期的目標】

・生徒の分かった、できたを大切にす授業、探究活動の要素を取り入れ、主体的、対話的で深い学びのある授業、生徒がさらに勉強したくなる授業をとおして、生涯にわたって必要なことを学び続けるための学習方法を身に付けさせる。また、ICTを活用した質の高い授業を実践する。

#### (1) 普通教科、専門教科の授業の充実

【目標】 より良い授業を実践するため、教科指導力を向上させ、生徒の学力向上を図る。

教科に対する興味関心、進路指導実現のための基礎学力向上を図る。

個々の生徒への学習支援を充実し、基礎学力の向上を図る。

- 【方策】 ①生徒の興味・関心を高める工夫を徹底して行う。授業での探究活動の要素を取り入れ、「主体的・対話的な深い学び」を実践し、生徒に考えさせる授業を実施し、知的好奇心や学ぶ意欲を高める。
- ②習熟度別授業や少人数授業を実施して、基礎・基本の定着を図るとともに、宿題や課題、外部教育プログラムを活用して学習習慣の定着を図る。
- ③定期考査や基礎力診断テスト等を分析し、生徒一人一人の学習状況に対応した指導を行う。
- ④学力向上研究校として、組織的な補習・補講体制を確立し、放課後学習の場を設置し、学び直し指導とともに、学びたい生徒が学ぶことのできる場を提供する。
- ⑤新学習指導要領に対応した指導計画の作成と観点別評価を実践する。
- ⑥一人一台端末の効果的な活用を実践する。
- ⑦学校図書館を活用した学習や探究活動、読書活動等を推進する。

#### (2) 専門教科学習の推進

【目標】 農業の基礎となる専門的知識・技能の習得とともに、農業の楽しさ、やりがいを実感させる。

【方策】 ①農業に対する興味・関心を高める工夫、農業が好きになる工夫を徹底して行う。

- ②習熟度別授業や少人数授業を実施して、基礎・基本の定着を図るとともに、宿題や課題、外部教育プログラムを活用して学習習慣の定着を図る。
- ③農業への探究を深める教科活動を行う。
- ④SDGs、スマート農業、GAP 教育、HACCP 教育、農業の6次産業化を取り入れた授業を推進する。
- ⑤資格試験の指導を計画的に行い、卒業までに生徒一人一資格以上を取得させる。
- ⑥農場部全体で、農業を科学的に探究する指導を実践し、自主的な研究や発表等に取り組ませることにより、農業クラブ活動に積極的に取り組む。
- ⑦FFJ 検定、アグリマイスター顕彰制度の取得を目指す。
- ⑧ICT や一人一台端末の利活用を推進する。

#### (3) 授業力の向上

【目標】 教員一人一人が授業改善の目標を立て、授業力向上に取り組む。

【方策】 ①「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を通して各教科における資質・能力を育成

する。

- ②教員相互の年2回以上の授業見学を組織的に実施する。また、全教員が授業評価を実施し、教員の授業力向上を目指す。
- ③全教員が統合型校務支援システム、Microsoft teams の活用を推進する。
- ④全教員が一人一台端末の利活用を図り、実践的な授業の構築を図る。
- ⑤授業研究を計画的に実施し、その成果を研究紀要にまとめる。

## 2 生活指導の充実

### 【中期的目標】

・生徒の心を育てるために、生徒の状況を学校全体で共有し、必要な指導を全教職員が共通理解のもとに行う組織的な生活指導体制を確立する。

#### (1) 基本的生活習慣の定着、規範意識の涵養

【目標】 規範意識や公共の精神の醸成と向上を図り、身だしなみ、あいさつ励行、時間を守る等、社会で必要とされる基本的なマナーや規範意識を身に付けさせる。

【方策】 ①教職員の共通理解を深め、連絡・相談を徹底し、教職員全体で連携し、身だしなみ、あいさつ励行、時間を守る等、社会で必要とされる基本的なマナーや規範意識を確立させる。

②委員会活動や生徒会活動によるあいさつ運動を実施する。

③遅刻指導は、生活指導部と学年が連携し個に応じた粘り強い指導を行う。

④SNSの使い方等情報モラルの習得、生活安全に関する教育、災害発生を想定した避難訓練などの取組では、関係機関等と連携を図り、指導内容を充実させる。

⑤いじめの未然防止指導を徹底する。いじめに対しては早期発見に努め、早期対応を行う。

#### (2) 安全教育・健康教育の推進

【目標】 安全教育・健康教育を充実させ、安全・安心な学校生活を送ることができるようにする。

【方策】 ①非行や誘惑に巻き込まれない自己管理（危険回避）を指導する。

②地域や消防署と連携した防災訓練を行う。

③警察や自動車教習所と連携した交通安全教育を実施する。

④「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を踏まえた体力向上への取組（東京都統一体力テスト、スポーツへの関心を高める取組等）を実施する。

⑤健康教育を推進し、生徒の健康に関する理解を深めさせ、生涯を通じて心身ともに健康で安全な生活を送る基礎を培う。

## 3 進路指導の充実

### 【中期的目標】

・農業の専門高校として計画的なキャリア教育を推進し、次世代の農業を創造する志をはぐくむ。生涯を見通した進路選択のための適切な個に応じた指導を推進し、生徒の進路希望をより良く実現する。

【目標】 生徒一人一人の個に応じた進路指導により、生徒の第一希望の進路を100%実現を目指す。

【方策】 ①3年間を見通した組織的・計画的な進路指導を行う。

②朝学習、補習・補講、外部プログラムなどを有効に活用して、基礎学力の向上に努める。

③上級学校、企業訪問等、情報収集を徹底して行い、進路先が求める生徒像等の理解を深める。

④ハローワークとの連携を密に取り、就職指導をより一層充実させる。

⑤奨学金について、適切に情報提供を行う。

⑥前年に就職した卒業生の就労状況について調査を行う。

⑦就農に関する情報を提供し、就農について考える機会を設ける。

⑧インターンシップを実施して、職業に対する意識を高める。

⑨学年、進路指導部、教務部が連携し、必要な調査書、推薦書等の作成に努める。

## 4 特別活動の充実

### 【中期的目標】

・特別活動において、多様な他者と協働する様々な集団活動を経験させ、課題を解決するための話し合い、合意形成や意思決定することをおして、自己の人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

【目標】学校行事、ホームルーム活動、部活動等の特別活動を充実させて、生徒の自主性を高め、自律的な活動の活性化を図る。

- 【方策】①文化祭や体育祭などの学校行事において、全校生徒が自主的・主体的に活動できるようにする。  
②生徒会が学校生活の様々な面でリーダー性を発揮できるよう生活指導部を中心に適切な指導を行う。  
③運動・教養部活動を活発化し、部活動の加入率の向上や各種大会での好成績を目指す。また、農業の専門部活動等の研究活動を推奨し、学校の内外で研究成果発表を積極的に行う。  
④ホームルーム活動、学校行事等に探究的学習活動を取り入れた活動を行う。  
⑤日常の清掃活動を徹底する。また、生徒の校内美化への意識づけを図り、環境美化を推進する。  
⑥農場部全体で、農業クラブ活動に取り組み、農業クラブ活動を活性化させる。

## 5 人権教育・教育相談

### 【中期的目標】

・教育活動全体の人権教育を適切に位置づけ、教員と生徒の信頼関係を基盤として、個々の生徒の特性に応じた長所を伸ばす指導を行い、生徒が将来、社会の一員として活躍するための自己肯定感や他者を尊重する心、健康な身体をはぐくむ。

#### (1) 生命尊重、人権尊重の教育の推進

【目標】生命尊重の教育、人権教育を推進し、自他の生命や人格を尊重する態度をはぐくむ。

- 【方策】①日常の教育活動全般をおして、人権や命の大切さについて考えさせる指導を計画的に実施する。  
②人権課題について教員研修を実施するとともに、生徒向け講演会等を実施する。  
③すべての授業、ホームルーム等において、常に生命尊重、人権尊重を意識した指導を行う。

#### (2) 教育相談体制の充実

【目標】生徒情報を共有し、配慮や支援が必要な生徒への個に応じた適切な支援や対応を組織的に実施することで、生徒の課題を解決し、円滑な学校生活を送ることができるようにする。

- 【方策】①生徒が気軽に相談できる雰囲気づくりを進める。  
②配慮や支援を必要とする生徒に対して、個に応じた取組を校内で組織的に行う。  
③担任等との面接など教育相談活動を通して生徒の心の安定を図る。  
④通級指導への関係機関と連携しながら校内の支援体制を構築する。

## 6 学校経営

### 【中期的目標】

・限られた条件の中で生徒のために最大の成果を上げることがを目的とした創意工夫ある取組を推進する。本校の特性を生かした活動により、地域に根ざした農産高校の存在を広く区民・都民に周知する。

#### (1) 地域連携、地域貢献活動の推進

【目標】これまでの活動を見直し、本校の特性を生かした地域貢献活動の在り方を確立する。

- 【方策】①日常の学習活動を活かした地域貢献活動や地域貢献活動をおした探究活動を行う。  
②「人間と社会」や農業科目等において、自治体や地域の団体と連携した活動に取り組む。  
③葛飾区、荒川区との連携、小中学校との連携を推進する。  
④地域連携活動の年間計画を作成する。  
⑤農業の特長を生かしたボランティア活動の取組を推進する。

## (2) 募集活動の充実

【目標】中学生及びその保護者、中学校の進路担当者に農産高校の情報を的確に伝える。

【方策】①卒業生訪問や出前授業等、中学校への情報提供を積極的に行う。

②学校見学会や学校説明会を工夫して開催するとともに、外部団体主催の説明会に積極的に参加する。

③塾等の情報を収集し、広報活動を徹底して行う。

④SNSやHPによる情報発信を組織的、計画的に実施する。

## (3) 次世代の社会にむけた教育活動

【目標】持続可能な社会を実現するため、国際的な視点を持ちながら、地域社会で活躍するグローバル人材を育成する。

【方策】①ESD(持続可能な発展のための教育 Education for Sustainable Development)を推進する。

②地域や企業と協力し、「グローバル教育」に取り組む。

③持続可能な社会づくり実現のため、SDGsやスマート農業を取り入れた授業を実施する。

④教員一人一人が資質・能力を高め、学校の教育力を向上させるため教員研修を計画的に実施する。

## (4) 教育環境の整備

【目標】生徒の学習環境、学習条件を良好な状態に維持する。

【方策】①施設・設備や備品類の維持・補修・更新、什器類の更新、廃棄物の廃棄等について、中長期計画に基づき計画的に実行する。

②経営企画室、各分掌、各委員会の連絡を密にし、組織的に課題解決に取り組む。

③自律経営予算を効率的に執行し予算残をなくす。センター執行率50%を目指す。

④ライフ・ワークバランスを意識し、業務の効率化を図り、残業時間削減等に取り組む。

## (5) 服務事故の防止

【目標】法令順守を徹底し、服務事故を起こさない。

【方策】①全教職員が、体罰や不適切な指導を決して行わない。

②教職員が互いを尊重し、ハラスメントのない職場づくりを進める。

③服務に関する規則、私費会計、個人情報等の取扱い等について、注意喚起や研修会を適宜実施し、法令順守の意識を高める。

## IV 数値目標

(1) 学力検査に基づく選抜の応募倍率 1.10 倍以上

(2) 進路決定率 100%

(3) 中途退学、転学者数 5 名以内

(4) 部活動加入率 85%以上

(5) ホームページ更新 100 回以上

(6) 年間延べ遅刻回数昨年比 50%以下

(7) 日本農業技術検定 3 級合格率 75%以上

(8) 技能士 3 級合格者 15 名以上、2 級合格者 2 名以上

(9) 学校評価アンケートにおける生徒満足率 90%以上

(10) 就職における第一希望への合格 100%

(11) 農業系、食品系大学への進学 10 名以上

(12) 農業大学校進学者 3 名以上